

# 栄ちゃんの 熱血演歌塾

『みれん舟』編



みれん舟は久し振りのおんな歌になります。突然、自分の許を立ち去り姿を消した男の消息に思いを巡らせます。男の行動の唐突さに一人取り残された女の胸は掻き乱され、茫然自失の心情を歌います。

一般的に演歌と呼ばれる歌のジャンルはその歌の内容によって演歌、艶歌、縁歌、或いは怨歌等と色々の字を宛てる訳ですが、今回の歌は敢えて言うなら”怨歌”と言う呼び名が相応しいかと思えます。従ってその表現方法でご説明致します。勿論抒情演歌として美しく声を響かせて歌って頂いても構いません。その歌の主人公の気持を投入しなくても一つの物語としても十分成立すると思えます。それでは行ってみましょう。

～嵐に一揉まれて～いきなりサビから入る形になりますが、こんな変則的なスタートの歌い出しの場合は、(歌の主人公の心)の有り様を良く理解し又、声を遠くに飛ばす準備をしておかなければなりません。この歌は主人公は女性でありその寂しさと不安を言わずには居られないその心情をイメージして下さい。誰でもいいから直ぐそばにいる人に向けて、ねえ聞いて！聞いて！この様にそんな状況に置かれた女の心理状態を心の内に描いて歌い出します。

気持的に切迫した心理状態です。このスタイルの歌い出しが大川演歌には多く、「別れ港町」「絆川」「駅」等がありますが、内容(ストーリー)及び唱法は又、それぞれ別のスタイルです。そして声を遠くに飛ばすと言いましたが、～嵐～の”あら”は眉間から前頭部の頭蓋内に響かせます。それに大事な事は歌い出す直前にお腹の下部に息を沢山取り込む事。声を出す直前にお腹を膨らませて、腹筋を使って声を出すときにへこませる感じです。ただ腹筋に力を入れて硬くしてはいけません。柔らかく呼吸を循環させる為の大事な器官です。息を取り込む事と腹筋でその息を押し出す事と連動します。

そして～しに～は余力をこまめに。～に～はたっぷりバイブレーションをかけて！その為に～し～を力むと又違うテイスト(味わい)の歌になります。要はおんな歌だと言う事です。

あくまでも柔らかく響かせます。～舵を取る～ここでスイングします。リズムに乗って揺れる感じです。木の葉舟が荒波に翻弄されます。～おんなごろの～おんな～に対して～ごろの～はたたみかける様に。～悲しさよ～ここは思いっきり切なさを盛り込んで、しっとりとしみじみと。だからと言って、音量を極端に下げない様に。この事は大事です。

～私を置いて～あなたは一人～ここは八分音符でしっかりとリズムを刻みます。～おんなごろの～の表現と真逆の乗りです。心情的には冒頭の二行を歌い上げた事に依り少し気持も冷静になり、今の自分の姿を第三者的に見る感じです。要は語る感じです。

～どこへ～言ったのよ～ここで相手の消息に思いを巡らせます。再び気持が昂ぶります。そしてリズムの乗り及び言葉尻も粘っこくなります。一つ一つの言葉を引き摺る様に。端的に言えば相手をなじむような気持ちで！どうしてくれるのよ！！こんな感じで歌ってもオーバーにはなりません。

～さだめ～儂い～浮世の川を～この歌のクライマックスです。冒頭に申し上げた”怨歌”の本領を発揮する最大の見せ場で有り聞かせどころになります。冒険ですが、歌い込んで歌い慣れてきたらアカデミック(正統)な発声から一步踏み外して、発声も感情も爆発的に乱れます。要はシャウト(叫ぶ)する感じです。ここで気をつける事はピッチ(音程)のぶれを保つ事です。この唱法は感情表現を重視する為にピッチが不安定になりがちです。ここで大事な事は冒頭の歌い出しに述べた、呼吸法が大事になります。腹式呼吸を改めて意識して！のど声になりがちなので、お腹から声を搾り出す感じです。

～どこへ～流れる～この行は前行と打って変って対極の表現になります。この行は何の感情表現も要りません。前行で爆発した感情はジェットコースターで垂直に落下するイメージで冷めた感情を表します。この時のテクニックは思いっきり脱力して！又言葉と声、音量はコントラスト(明暗の差)を付け過ぎない様に。二行目の～悲しさよ～と共通する歌い方でいいと思えます。

明確に声、音量を、明確に出して下さい。全体的に言える事ですが、この様に声、感情の振幅が大幅に振れる歌はのどだけや口先だけで声や表情を作ろうとしてもダメです。何度も言いますが心と身体の準備をいつも怠りなく。

～おんな舟～ここは最後の決め台詞です。たっぴりとゆったりと声もこぶしも回すように！特に～おんな～の～な～は遠くに呼びかける様に朗々と。その次の～ア～も格別に大きく節を回します。細かくご説明致しましたが、一言一句に気を配るのが”おんな歌”の特性です。細かい感情も爆発する情念も一つの歌の中で完結しましょう。

それらが達成された時は特段の喜び、充足感に浸れると思えます。

作詩 秋浩二  
作曲 筑紫竜平  
編曲 南郷達也

嵐にもまれて 舵をとる  
女ごころの 悲しさよ  
わたしを置いて あなたは一人  
どこへ行ったのよ  
どこへ 行つたのよ  
さだめ 儂い 浮世の川を  
どこへ 流れる おんなの舟